

故 渡邊亘親前理事長・学院長 学院葬



執務中の故渡邊前理事長・学院長

故 渡邊先生の略歴

【職歴】

- 1945年 金城女子専門学校附属高等女学部教諭
- 1954年 金城学院大学短期大学部講師
- 1963年 金城学院中学校長補佐（併任）
- 1967年 金城学院大学教授
- 1969年 金城学院大学短期大学部長
金城学院理事（常任）
- 1976年 金城学院大学長・短期大学部学長
- 1979年 金城学院理事長・学院長
- 1980年 米国南長老教会表敬訪問
- 1994年 勲三等旭日中綬章受章
- 1995年 クイーンズ・カレッジ及び
米国長老教会本部からの招聘
- 1997年 金城学院長退任
- 2004年 金城学院理事長退任
- 2006年 理事退任 名誉理事長
- 2007年 ご召天

【社会貢献】

- 1963年 名古屋教会幼稚園長（1976.3迄）
- 1977年 名古屋教会幼稚園理事長（2006.3迄）
- 1978年 美園幼稚園理事（2005.3迄）
- 1979年 アジア保健研修所理事・後援会長（1981.1迄）
日本私立大学協合理事（2000.3迄）
- 1980年 愛知地方最低賃金審議会委員代理（1982.5迄）
- 1981年 財団法人アジア保健研修財団理事（2003.3迄）
キリスト教学校教育同盟理事（2001.6迄）
愛知県私学総連合理事（1988.3迄）
- 1982年 愛知県私立大学協会会長（1988.3迄）
愛知地方最低賃金審議会会長（1990.4迄）
名古屋ユネスコ協会顧問（1988.10迄）
名古屋市人事委員会委員長（1983.7迄）
愛知県私学総連合理事副会長（1988.3迄）
財団法人大幸財団評議員（1990.3迄）
- 1983年 学校法人岐阜清美学院理事・評議員（2004.3迄）
- 1985年 財団法人名古屋大学出版会理事（2005.3迄）
名古屋いのちの電話理事（1990.2迄）
- 1986年 名古屋市人事委員会委員長（1987.7迄）
- 1987年 名古屋守山ロータリークラブ会長（1988.6迄）
大学設置・学校法人審議会委員（1993.4迄）
- 1988年 日本私立大学協会副会長・中部支部長（1995.3迄）
名古屋YMCA理事（1993.6迄）
私立大学退職金財団理事（1997.3迄）
財団法人私学研修福祉会理事（1992.9迄）
- 1989年 名古屋商工会議所商業活動調整協議会長（1992.1迄）
- 1991年 グリーンシティケーブルテレビ株式会社
放送番組審議会会長（2004.3迄）
- 1993年 社会福祉法人さふらん会評議員（2004.3迄）
社会福祉法人さふらん会後援会長（2003.3迄）

半世紀に亘り、金城学院において教育者、キリスト者として歩まれ、その間、四半世紀を学院のトップ・リーダーとして活躍された渡邊亘親前理事長・学院長が、本年3月2日、85歳で天に召されました。

渡邊先生のご活躍は、金城学院に留まらず、全国の私立学校やキリスト教界におよび、さらには、経営学の専門家として企業経営者や中小企業関係者の相談にのられるなど、多方面において優れた功績を残されました。

故 渡邊亘親前理事長・学院長の学院葬が、4月14日（土）の午後2時から、ご遺族をお迎えして大学ランドルフ記念講堂で執り行われました。正面の舞台には、学院のスクール・フラワーともいべき白百合の群生をバックに常緑樹による緑の十字架が浮かび上がり、その上に、故人の近影が飾られました。2階の左右両袖には、金城学院大学ハンドベルクワイアとクワイアが清楚な姿で立ち並び、式典中の讃美を担当しました。



金城学院大学ハンドベルクワイアの演奏

会葬者は、講堂1階をほぼ満たし、その中には、数多くの学院関係者や同窓生のほか、創設以来、多くの宣教師の派遣母体であった米国長老教会から、故人と親交があったインシク・キム氏のお姿もありました。会葬者には、「追悼－故渡邊亘親前理事長・学院長を偲ぶ」と題する13頁の小冊子が予め配布され、その中の式次第に沿って式典が進められました。

深谷昌一理事の司式で、式典はハンドベルによる「Nearer My God to Thee」の前奏で始まり、続いて、故人の愛唱讃美歌「いつくしみ深き友なるイエスは」を一同で讃美しました。丹羽卓理事による聖書朗読では、テサロニケの信徒への手紙Ⅰの5章12～24節が朗読されました。



故人略歴を紹介する柏木哲夫理事

続いて、柏木哲夫理事から故人の略歴が紹介されました。その内容は左記の「故 渡邊先生の略歴」でご覧いただく通りですが、故人の活動がいかに多彩・多岐であったかがお分かりいただけると思います。

続いて、横手征彦理事が学院宗教総主事として、次のような要旨の式辞を述べられました。「渡邊先生を尊敬し、思慕する私どもは、聖書の言葉から真実の慰めを与えられたいと願っています。先生は金城学院の戦後の最も困難な時期を支えた方として忘れてはならないお方です。1945年9月、終戦の1ヶ月後になりますが、金城学院に赴任されました。名古屋が空襲を受けて白壁のキャンパスは栄光館を残して全て校舎は消滅し、大破した栄光館の天井を通して見える夜空を眺めながら、金城学院の将来を一心に祈ったと先生は書いておられます。

上掲の聖書箇所19節で『霊の火を消すな』、『預言を軽んじるな』とパウロは言うのです。この言葉に応答する人として、先生は、学院の復興とキリスト教学校の形成を、先頭に立って指揮されました。そして、



先生を必要とする領域は学内に先生を封ずることを許さず、多方面へと広がったのです。

私どもはかけがえのない指導者を失いました。それは、私どもを襲った大いなる試練です。そのような私どもは、渡邊先生を生かした23節以下のパウロの言葉『あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように』を私どもの祈り、私どもの願い、私どもの希望にしたいと願います。」

祈りに続いて、故人の愛唱讃美歌「主われを愛す 主は強ければ」を全員で讃美したのち、3人のご来賓からご弔辞を頂きました。日本私立大学協会を代表して、愛知学院長・愛知学院大学長の小出忠孝様は、こう述べられました。「渡邊先生は、その生涯を通して慈父の如く金城学院



愛唱讃美歌を讃美

を愛し、また国公立大学の振興に捧げ尽くされたのです。そのご功績に対して勲三等旭日中綬章を受けられたのです。」

また、キリスト教学校教育同盟を代表して、とくにご親交があった青山学院長の深町正信様のご弔辞は、まず、ヘブライ人への手紙12章7～8節を読まれたのち、「渡邊先生は、



アジア保健研修財団理事長 川原啓美様

様々な学院の改革に取り組み、キリスト教学校として社会的に高い評価を受ける今日の金城学院を目指して、その先頭に立って尽力されたほか、長年にわたって、キリスト教学校教育同盟で重要な役割を果たされ、いつも温和で、誰に対しても公平にご指導くださる方でした」と述べられました。

アジア保健研修財団理事長の川原啓美様は信徒を代表して弔辞を述べられました。昭和22、3年にかけて、ともに栄光館の講壇に膝まづいて受

洗をされ、キリスト者の第一歩を歩み出されたことのほか、「発足後間もない財団を、キリスト教会や財界にご紹介くださったのが、渡邊先生だったのです。先生のお陰で会員が増え、これまでに多くのアジアの草の根の医療の指導者たちを育成してこられたのです」と感謝の言葉を述べられました。

ついで、伊吹文明文部科学大臣をはじめ、各界の方々から寄せられた弔電が鈴木和延理事によって紹介され、故人の多岐に亘る活動とお人柄が改めて偲ばれました。

加藤久雄理事による終禱に続いて、ハンドベル演奏、バッハの「Pastorale “Arioso”」によって式典を閉じました。最後に、葬儀委員長を務めた戸田安士理事長から感謝の言葉が述べられ、学院葬の全日程を終わりました。



渡邊先生の奥様と喪主の長男哲朗様、戸田理事長